

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2024.3 vol.215

定年退職のご挨拶

副院長 中島 均



昭和62年にレジデントとして当時の南九州中央病院に1年間勤務しました。その後平成5年から循環器内科常勤医として再度勤務することになりました。

当時は私自身の学位の仕事も終わり、循環器内科医としての理想を当院で実現するため、また循環器専門医、カテーテルインターベンション専門医等自身のキャリアアップにむけ研鑽しておりました。「循環器病で東京なら助かる命を鹿児島で失うことがあってはならない」をスローガンに、昼夜24時間頑張り続けていた記憶があります。その甲斐あって平成16年に国立病院九州循環器センターと改名、九州で唯一の国立地方循環器センターとして福岡を差し置いて循環器病の代表となったことで誇らしく思ったものです。

平成18年から循環器・がん専門施設として鹿児島医療センターに名称変更、ガンにも力を注ぐ方向となりました。平成23年には、日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)九州地方会を開催することができました。

平成24年からは救急部長、循環器内科部長を併任し、心臓病・脳卒中救急センター設立に邁進しました。当時の私は、干支が猪生まれの影響か、猪突猛進、皆様にご迷惑かけていたと思います。とくに若手後輩の指導での場面では、自分ができることは後輩もできて当たり前とっており、今であれば到底許されない、バフハラまがいの教育を行なっておりました。今では反省しておりますので何卒ご容赦ください。平成28年には統括診療部長として臨床倫理委員会設置を行い、臨床では鹿児島初の経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)導入へ向け、当時副院長であった森山由紀則先生と資格獲得のため奮闘しました。今では順調に症例を積み上げ700例間近までになっております。平成29年からは現在まで副院長として医療安全、病院経営にもタッチすることになりました。経営なくして医療安全なし、医療経営の厳しい現実も経験することができました。医療安全部門では医療メディエーター導入や、医師の侵襲的処置時の合併症報告制度制定など他病院に先駆けて行いました。通算32年の長きに渡り、なんとか最後まで勤め上げることができたのも、職場で支えてくれた、後輩同僚先輩のおかげだと感謝しております。今後はお世話になった病院になんとか恩返しできればと思っております。鹿児島医療センターのますますの発展を祈念して最後のご挨拶とさせていただきます。

定年退職のご挨拶

臨床研究部長 城ヶ崎 倫久



私は平成13年5月、当時は国立病院九州循環器病センターであった当院の臨床研究部に赴任しました。23年間の業務の中心は、主に臨床研究の推進と治験管理室の運営でした。臨床で忙しい先生方に関心を持って臨床研究をしてもらうかを考え、自分でも研究を遂行する日々でした。平成21年からは鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の連携大学院となり、大学院生を迎えることができるようになりました。若い大学院生と一緒に抄読会や勉強会をしながら実験し、博士論文を書いてもらいました。当院で医学博士が誕生する喜びを味わうことができました。今後は医師の働き方改革によって、研究や実験に割く時間の確保も困難になることが予想されます。そういつた中で5人の医学博士の誕生に関われたこと、また、その中の1人が令和6年4月から国立大学医学部の教授に就任することが決まりました。私の定年退職の時期と重なり、感激の極みです。

私のもう一つの仕事は治験管理室の運営でした。治験の推進は国立病院機構の使命の一つです。新しい治療を確立するには欠かせない治験ですが、国の方針もドラッグラグなどの問題を受けて変化してきています。たえず最新の情報を入手しアップデートさせていかなければなりません。今後とも治験推進へのご理解ご協力をお願いいたします。

また、2021年の新型コロナウイルスワクチンの接種においては、職員の皆様のご協力で日本での先駆けとしてワクチンを受けていただきデータを収集しました。これにより日本におけるワクチン接種の安全性を担保できたのではないかと考えています。

近年、臨床研究においても、治験においても、医療AI分野の研究開発と個人情報保護とその活用の方法など新たな課題があがってきています。加えて医師の働き方改革や急激な高齢化の進む日本の医療体制は、今は過渡期なのかもしれません。次期臨床研究部長の新たな体制の下で日本の臨床研究の推進に寄与されていくことを心から祈念しております。これまで23年間本当に有難うございました。

能登半島災害支援報告

今回、2024年1月31日～2月4日の5日間、国立病院機構（NHO）の災害派遣で石川県に行って参りました。当院の医師1人、看護師2人、薬剤師1人、診療情報管理士1人の計5人のメンバーで出動しました。

1月31日に新幹線と飛行機を乗り継いで、石川入り、金沢医療センターの災害派遣本部で任務を付与されました。2月1日に乗用車で活動場所である輪島市に向かいました。七尾町から道路の陥没や建造物の損壊が目立つようになりました。輪島市内に到着したころにはほぼ半数の建造物が倒れ、瓦礫が公道にはみ出て、マンホールが隆起し、一部通行できない状態でした。瓦礫や道路の損壊の合間を縫って、現地の活動本部である、輪島市役所に到着しました。



本部会議に参加しましたが、話題の争点は①避難所での感染症蔓延に対する対策、②一般のクリニック、開業医の多忙な運営、③地域の総合病院の今後の課題でした。特に③については、震災に伴い、病院の半数以上のスタッフが移住により退職が予定され、また、かかりつけ患者様も安全な他県や金沢市に移住していることから、今後の病院経営が危ぶまれている危機的な状況でした。

私たちは、2月2日～3日、大小2か所の避難所を巡回しました。

一つは約400人の避難民が生活している巨大な避難所で、学校の校舎、体育館、多目的室などあらゆる所に、人々がコミュニティを作り生活していました。体育館には一面に段ボールハウスが立ち並んでいました。同避難所では、新型コロナウイルス感染症と、感染性胃腸炎が蔓延し、感染者は指定の教室で隔離を受けていました。問題点は、これまで24時間常駐し



ていた医療チームが翌々日から撤退となるため、今後、常駐スタッフを派遣できるかでした。本部に状況を報告し、常駐看護師一名の派遣とNHO・日赤本部から1日1回、巡回チームが派遣されることとなりました。400人の避難民の移動先やその後については、まだ決まっていないとのことでした。

もう一つの避難所は、約50人が住んでいる避難所でしたが、つい1週間前に新型コロナウイルス感染者が5人発生しており、私たちが訪問したときには皆隔離解除となっていました。ただ、お一人咽頭痛を訴える方に対して検査を行うと、新型コロナウイルス抗原が陽性となり、隔離とさせて頂きました。その他、2人の方の診察を行いました。多くの方が長期間の避難でストレスが溜まっているようでした。



今回の災害派遣で痛感したことは、少なくとも派遣された輪島市内において、

- ① 震災発生から一か月経過した今、まだ破損した建造物の瓦礫の撤収や行方不明者の捜索ができていない。
- ② ライフラインについて、電気や携帯の電波、食料品に関しては十分なものの、避難所でのシャワーや風呂の普及率が20%程度で十分整っていない。
- ③ 避難所での感染症の蔓延をいかにとどめるか。

ということでした。また、他の医療班からお話を伺うと、医療班からの避難所での感染症のゾーニングや感染予防の啓蒙に関しては、まずは派遣されたスタッフがその土地の避難民の方に受け入れて頂けるか、信頼関係の構築が課題のようでした。医療班の支援は引き続き必要と実感した5日間でした。

鹿児島医療センター 医師 伊集院 駿
 看護師 野呂 俊幸
 看護師 溝口 隼
 薬剤師 河村 英哉
 診療情報管理士 松田 章吾

第2回

日本口腔ケア学会 鹿児島口腔ケアフォーラム

2024年（令和6年）2月4日（日）に鹿児島医療センター大会議室において「第2回日本口腔ケア学会鹿児島口腔ケアフォーラム」を開催しました。本フォーラムは口腔ケア学会が各都道府県で開催しているフォーラムで、第1回も当院が鹿児島県で初めて開催しましたが、今回も当院が口腔ケア学会の要請を受け開催しました。今回は、超高齢社会を迎えた中今後の高齢者医療、介護の大きな課題となるフレイルをテーマに「フレイル予防を目指した口腔管理 - オールフレイルを考える -」と題して開催しました。歯科医療関係者だけでなく医師、看護師、言語聴覚士など地域の医療、介護に関わる多職種の方々にオールフレイルや口腔機能低下症に対する共通の意識を持ってもらうことを目的に企画致しました。



フォーラムは先ず講演1として私から「急性期病院における口腔機能低下症」について講演した後、講演2では鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野准教授西恭宏先生より「口腔機能低下症の現状と今後」と題して、オールフレイルや口腔機能低下症についての詳細についてご講演頂きました。最後に特別講演として、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野教授戸原玄先生を講師に招き、「摂食嚥下障害の評価と訓練」と題してご講演頂きました。摂食嚥下障害やリハビリテーションの実際から最新の研究内容までユーモアを交えながら分かりやすく非常に楽しいご講演を頂きました。私を含め参加者にとって非常に有意義な内容であったものと考えます。



前回同様にフォーラムの定員は100名としましたが、今回もそれを上回る121名の申し込みがありました。実際当日には、医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師など多くの職種の方々に参加され112名の医療関係者の参加を頂きました。アンケートでは、満足度が99%あり、概ね満足できるフォーラムが開催できたものと考えております。今後も当院ではオールフレイルの予防や口腔ケアを中心とした口腔管理などに対する医科歯科連携の推進に尽力し、積極的にその情報を発信し、鹿児島県の地域医療の発展に貢献していきたいと考えております。

最後に、本フォーラムに事前登録の申し込みされた方で会場の収容人数の許容量の関係上参加をお断りさせて頂いた方々にはこの場を借りてお詫び申し上げます。また、開催にあたり、ご協力、ご支援頂きました院内各部署および共催の株式会社大塚製薬工場に厚く御礼申し上げます。

（文責：歯科口腔外科部長 中村 康典）

婦人科レジデント

弓指 里萌



2024年2月より婦人科レジデントとして赴任いたしました、弓指里萌と申します。鹿児島に生まれ、鹿児島で育ちました。鹿児島は温暖な気候に恵まれ、気候に負けないくらい温かい人々が集まる素敵な場所だと思っています。私を育ててくれた鹿児島という地域に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、多くのことを吸収し成長できるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

新任
紹介

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

